



令和4年度 第1回北区幼保小連携推進協議会を開催しました

5月31日、北区幼保小連携推進協議会が白楊小学校にて開催されました。令和元年度以来の集合開催となった今回、オンラインでの講演会や小中パートナー校を基本にした新しいブロックでの交流を通して、幼保小連携の必要性や意義を考える貴重な機会となりました。

記録やアンケートから、一部ですがご紹介します。是非、今後の各校・園の取組、そして地域での連携の参考にさせていただければと思います。

テーマ 『**学びをつなぐ幼保小連携・接続**』
～**幼児期の教育と児童期の教育の理解を深める**～

①具体と課題を「知る」

～ブロック交流での話合いより～

■幼児期の学びとは

○講演中の『回転ずしごっこ』の姿に、言葉や創意工夫、数量やルール、主体性、友達との関わりなど、たくさんの学びがみられた。日常生活の中で、子どもの様子を価値づけし、学びを見取る保育者の役割が大切。



■接続期に大切なこと

- スタート時は『40分座れるかどうか』よりも、少しずつ時間を伸ばして成功体験を積み重ねられるようにしたい。
- 年長児には、遊びや生活を通して時間の感覚が意識付けられるとよい。
- 筆圧の弱い子が増えている。文字を書くことよりも、楽しく描く、塗る体験を重ねることが大切。
- 自己肯定感が高い子を育むことが一番大事。
- 小学校は一人一台端末の活用。幼保でも触れる機会があってもよいのでは。
- 未知のことに興味をもてるとよい。

■幼児期の学びを踏まえた小学校教育とは・

- 一人一人の育ちの背景を知ることがスムーズな指導につながる。
- 教師自身が幼小の学びにギャップを感じすぎないように余裕をもつことが大事。そのために、互いの生活を具体的に知る必要がある。
- スタートカリキュラムは地域の幼保の声を生かして充実させたい。



■できることから連携を進めよう！

- 困っていることだけではなく、学びにつながる意見交流が大事。
- 縦の連携だけではなく、横の連携(学校同士、幼児施設同士)も大事にしよう。
- 子どもの学びが連続していくために連携を深めよう。
- 「目指す子どもの姿」を地域で共有しよう。
- ICTの活用によって、コロナ禍でも先生同士、子ども同士の連携を進めよう。



～参加者の感想より～

「近隣の幼保小で知り合えた」ことや「いろいろな情報交換ができた」ことに意義を感じたという感想が大多数でした。ここでは講演会のお話にあった、幼保小連携の「考えられるメリット・効果」の観点からまとめ、ご紹介します。

入学前後の情報交換

- ・近隣の幼保小で会えるだけでも安心。(保)
- ・気になる卒園児の情報交流をしたい。(幼)
- ・スタートカリキュラムのために、担任の先生同士で話す機会があるとよいと思った。(小)
- ・引継ぎは顔を合わせて行いたい。(小)



交流活動の充実

- ・コロナで中断していたが、できるところから行いたいと思った。(幼)
- ・今後は交流を深めてお互いの実態をもっと知りたいと思った。(小)
- ・ICTの活用による連携の可能性について考えることができた。(小)
- ・継続していける交流を考えたい。(小)

幼保小の一貫性のある教育活動

- ・小学校への接続に向けて子どもたちの生活で大切にすることが見えてきた。(認)
- ・幼保認の横のつながりも大切。(保)
- ・「こんな子にしたい」と目指す子どもの姿を話すことに意義を感じた。(小)
- ・各園の取組を基にして、スムーズな接続となるようスタートカリキュラムを編成したい。(小)
- ・動画の「なかよし・わくわく・ぐんぐんタイム」を参考にしたい。(小)

教職員の相互理解

- ・互いの教育・保育内容を伝え合い、知り合うことが大事。(幼)
- ・先生同士の連携によって、子どもたちに小学校への不安感を減らすことができると思う。(認)
- ・小学校は“～しなければならない”が多いが、子どもの“やってみよう!”を生むことが大切だと感じた。(小)

講演会講師(渋谷校長先生)のカラー資料を白楊幼稚園ホームページにアップしました。各園・校での研修等にご活用ください。

白楊幼稚園 HP

→ [北区幼保小連携推進協議会](#)

協議会

※パスワードは非公開です (市教委)



第2回北区幼保小連携推進協議会のご案内(予定)

日時: 令和4年10月19日(水) 15:00~16:45

会場: 幌北小学校 体育館 (北19条西2丁目) 地下鉄北18条駅より徒歩5分

内容: 幼保小連携・接続に関わるブロック研修